

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 30 年 2 月 22 日
主管学校名	大阪教育大学附属幼稚園
PTA 会長名	木藤 守朗

実施概要	主管校	大阪教育大学附属幼稚園
	交流校	大阪教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	<ol style="list-style-type: none"> 1) サツマイモの苗つけ 2) タベのつどい 3) ふようバザー 4) PTA クラブ発表会および学校見学 5) 秋の芋掘り 6) ありがとうを届けよう 7) すもう会
	実施日時	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 29 年 5 月 18 日 2) 平成 29 年 7 月 22 日 3) 平成 29 年 9 月 9 日 4) 平成 29 年 9 月 11 日 5) 平成 29 年 11 月 16 日 6) 平成 29 年 11 月 20 日 7) 平成 30 年 2 月 19 日
	実施場所	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大阪教育大学柏原キャンパス内の支援学校畑 2) 特別支援学校 3) 特別支援学校 4) 特別支援学校 5) 大阪教育大学柏原キャンパス内の支援学校の畑 6) 特別支援学校 7) 幼稚園遊戯室
	実施目的	年間行事を通して、特別支援学校の生徒および保護者と附属幼稚園の園児および保護者が様々な形で交流することにより、お互いが身近な存在になり、認め合えることにより、自他を大切に出来る心を育みたい。
	実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 特別支援学校高等部の生徒らと園児がサツマイモの苗つけを行う。 2) 特別支援学校 PTA 主催の夏祭り「タベのつどい」に園児とその保護者が参加。 3) 特別支援学校 PTA 主催の「ふようバザー展」にて販売するバザー品を募集し提供。 4) 幼稚園 PTA クラブ所属の保護者による歌、手話による歌やクイズ、マジックなどの発表。その後特別支援学校の学校見学。 5) 春に特別支援学校の生徒と植えたサツマイモを園児が収穫する。 6) サツマイモの苗付けおよび収穫までのお世話をしていただいたことに対するありがとうの気持ちを込め幼稚園保護者が手作りしたおやつを年長児が届ける。 7) 幼稚園主催のすもう会に特別支援学校小学部の児童らを招待する。
実施方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大阪教育大学柏原キャンパス内の特別支援学校の畑に年長児親子が春の遠足で訪問し、特別支援学校高等部の生徒らからサツマイモの苗つけを教わりながら親子で苗を植える。また、秋の収穫までの水やりを特別支援学校生徒らにお願いする。 2) 招待状をいただき、タベのつどいに家族で参加する。 3) 幼稚園玄関ホールにてバザー品を収集し、提供する。 4) 幼稚園 PTA クラブに所属する保護者らが特別支援学校に出向き、歌、手話による歌やクイズ、マジックなどを発表し特別支援学校小学部の児童らと楽しいひと時を共有する。その後特別支援学校の校内を案内していただき、お互いの理解を深める。 5) 大阪教育大学柏原キャンパス内の特別支援学校の畑にて、春に苗つけを行ったサツマイモを特別支援学校の生徒らとともに収穫する。 6) 幼稚園の保護者の手作りおやつに園児たちの感謝の手紙を添えて、園児たちが特別支援学校のお兄さんお姉さんに届けに行く。 	

	7) 幼稚園主催のすもう会に特別支援学校の児童らを招待し、力士と取り組みをしたり、取り組みを見て一緒に応援したりして、ともに楽しい時間を共有する。
参加人数	在園児・在園児の保護者 各約 150 名

報告事項	内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大阪教育大学柏原キャンパス内の特別支援学校の畑に年長児親子が春の遠足で訪問し、特別支援学校高等部の生徒からサツマイモの苗つけを教わりながら親子で苗を植えた。また、秋の収穫までの水やりを特別支援学校生徒らにお願いした。 2) 招待状をいただき、特別支援学校 PTA 主催の夏祭り「タベのつどい」に園児とその保護者が参加した。特別支援学校グラウンドにて、軽食の販売やゲーム夜店、大学生による YOSAKOI ソーランの披露などがあった。 3) 特別支援学校 PTA 主催の「ふようバザー展」にて販売するバザー品の募集を行った。また、附属幼稚園玄関ホールにバザー品の回収場所を設置、物品を収集し特別支援学校に提供した。 4) 附属幼稚園 PTA クラブに所属する保護者が、特別支援学校に出向き、歌や手話による歌やクイズ、マジックなどを発表し、特別支援学校小学部の児童たちと楽しいひと時を共有した。その後、特別支援学校の校内を案内していただいた。 5) 大阪教育大学柏原キャンパス内の特別支援学校の畑に年長児が秋の遠足で訪問し、春に苗つけを行ったサツマイモを特別支援学校高等部の生徒とともに収穫した。 6) サツマイモの苗付けおよび収穫までのお世話のお礼として、幼稚園の保護者がおやつを手作りし、年長児が特別支援学校高等部のお兄さん、お姉さんに届けた。 7) 幼稚園主催のすもう会に特別支援学校小学部の児童らを招待した。幼稚園遊戯室に土俵を作り、力士と取り組みをしたり、取り組みを見て一緒に応援したりした。
	結果	<ol style="list-style-type: none"> 1) 特別支援学校の生徒が苗付けの方法を、口頭で丁寧に説明してくれて、園児たちもとても分かりやすかったようだった。苗付けを行う際には、園児たちに苗が行き渡っているか気を配ってくれ、園児たちも上手に苗付けが出来ているかなど質問する姿があり、とても自然にお互いが交流できていた。 2) 附属幼稚園の園児と保護者でタベのつどいに参加した。軽食やゲームの夜店、YOSAKOI ソーラン節の披露などがあり、とても楽しむことができた。最後に花火が打ち上げられ、楽しい夏のひと時を共有することができた。 3) 附属幼稚園で、バザーの提供を募り、多数の物品を提供できた。 後日、特別支援学校 PTA 会長からお礼の言葉をいただいた。これからも続けていきたい。 4) 附属幼稚園 PTA クラブによる、歌や、手話による歌やクイズ、マジックに特別支援学校小学部の児童たちが、興味を持ってくれ、楽しんでくれている様子がうかがえた。PTA クラブ発表終了後、学校内を案内していただき、施設を丁寧に説明していただいた。高等部の授業風景ものぞかせていただいたことで、より一層お互いの理解が深まった。 5) 今年は不作だったが、特別支援学校の生徒さんたちが大きなスコップで上の土を柔らかくしてくれたり、どこを掘ると良いかや掘り方を丁寧に教えてくれたおかげで、園児たちは楽しく最後までお芋掘りをする事ができた。特別支援学校の生徒さんが優しくお芋掘りを手伝ってくれ、きちんと後片付けまでしてくれたことに、園児たちは「ありがとう」という気持ちを感じることが出来た。 6) サツマイモ収穫までのお礼として、手作りおやつを園児たちが特別支援学校のお兄さん、お姉さんに直接届けることで、園児たちの心からの「ありがとう」を届けることができた。突然に雨が降り出したが、園児たちは校内のあたたかいお部屋でお弁当をたべさせていただいたり、あたたかい対応をいただき、お芋掘りの直後にまた交流出来たことでより一層つながりを深めることが出来た。 7) 今年度は陸奥部屋の力士に来ていただき、特別支援学校小学部の児童たちも、園児たちもとても興奮している様子がうかがえた。体の大きな力士に真剣に向かっていく姿に、見ている児童、園児たちが共に一生懸命応援することによって、とても楽しい時間を共有することができた。

所感

春の遠足でさつまいもの苗を特別支援学校高等部の生徒さんたちに教わりながら植え、秋の遠足で一緒にお芋を収穫することで、園児たちも「お兄さん、お姉さん」と自然に接することができ、お互いをより一層身近な存在と感じる良い交流の機会となった。本年度は、特別支援学校高等部の生徒さんたちに、収穫までさつまいものお世話をお願いすることへのありがたい気持ちとして、幼稚園の保護者が手作りしたおやつを年長児がお兄さん、お姉さんへ届けました。お芋収穫の直後にまた直接交流出来たことでつながりを深めることが出来たと思う。

保護者も、夕べのつどいやふようバザー、PTA クラブ発表会や学校見学など、様々な活動で交流の機会を持つことができた。PTA クラブ発表後に、特別支援学校内を丁寧に案内していただき、また授業風景も少しのぞかせていただきました。普段あまり見ることの出来ない学校生活を見学させていただいたことで、より一層お互いの理解が深まった。

またおすもう会では、本物の力士との取り組みを見て互いに一生懸命応援する姿がみられ、とても楽しい時間を共有することができた。

今後も、単なる行事に留まらず、お互いの理解を深め、共生を育むような活動を工夫して継続していきたいと思います。

添付書類

報告書 領収書添付用シート 活動記録写真

サツマイモ苗付け



タベのつどい



PTA クラブ発表



秋の芋ほり



ありがとうを届けよう



すもう会





カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成 30 年 2 月 22 日
学校名	大阪教育大学附属幼稚園
学年	

【サツマイモの苗付け】

- ・お兄さん、お姉さんが斜めに植えるようにやさしく教えてくれた。でもどうして斜めに植えるのかなあと思った。
- ・秋にお芋堀りに行くのが楽しみだ。
- ・苗からサツマイモができるのが不思議だった。
- ・もっと色々なことをお兄さん、お姉さんと一緒にしたい。
- ・お兄さん、お姉さん、いろんなことを教えてくれてありがとう。

【夕べのつどい】

- ・花火がとてもきれいだった。
- ・マグネットの魚釣りが楽しくて、何度も何度も挑戦した。
- ・ボーリングでストライクが出て、ラムネをもらいうれしかった。

【秋の芋ほり】

- ・お兄さんが「ここ掘ったらいいよ。」と教えてくれて、そこを掘るとちょっと大きいお芋が出てきてうれしかった。
- ・特別支援学校のお兄さんたちと一緒に力を合わせてお芋掘りができて楽しかった。
- ・「お芋が折れないように、やさしく抜いてね。」とわかりやすく教えてくれた。
- ・とれたお芋をどうしようかとみんなで考えた。
- ・お兄さんとお姉さんは優しく、とてもお芋掘りは楽しかった。
- ・お芋は持って帰れなくて、残念だった。
- ・とれたお芋をどうしようかとみんなで一生懸命考えた。

【ありがとうを届けよう】

- ・お兄さん、お姉さんにスイートポテトとドーナツを届けることができてよかった。
- ・お兄さん、お姉さんに「ありがとう」が届いたかな？
- ・直接スイートポテトを渡したかったし、もっといっぱい遊びたかった。
- ・みんなでスライドを見ることができて楽しかった。

【すもう会】

- ・おすもうさんがあんなに若いと思わなかった。
- ・おすもうさんに、しこの踏み方を教えてもらった。
- ・おすもうさんの歌がきれいだった。わたしたちの歌で踊ってくれてうれしかった。
- ・おすもうさんのおなかすごくかたかったよ、と驚いていた。
- ・ドキドキしたけど、最後は勝って良かった。
- ・私もお友達も勝ったよ。小学生のお兄さん、お姉さんもみんな勝ってたよ。
- ・ドッジボールもいっしょにしてくれてありがとう。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成 30 年 2 月 22 日

学校名 大阪教育大学附属幼稚園

【サツマイモの苗付け】

- ・特別支援学校の生徒さんが段取り良く準備してくださったおかげで、子どもたちでもスムーズに植え付けができた。とても有難かった。
- ・教えてあげたい、伝えたいと思う気持ちの特別支援学校の生徒さんたちに対し、その話をいつもよりきりっとした顔つきで真剣に聞こうとする子どもたち。障害の有無に関係なく、交流できる環境があるということは、今だけでなくお互いに成長していく上でとても大切だと思った。

【ゆうべのつどい】

- ・お手伝いされている方、みなさん自ら積極的に動かされており、また自らも楽しんでおられるのが伝わってきました。
- ・子どもの気に入りそうなゲームが並び、子どもの笑顔があふれていた。ゲームは時間を切らずに、子どもたちの思いを大切にしてくださいました。そんな保護者の方々の姿勢を日々の子育てにもいかせると思った。
- ・運動場一面の花火がとてもきれいで、親子のいい思い出になった。

【ふようバザー】

- ・町の方々もたくさんお見えになっており、皆さんに対して丁寧に販売活動をしておられた。
- ・どのブースに立ち寄っても「ありがとうございました」と言ってもらえて、こちらもあたたかい気持ちになった。
- ・修了しても子どもたちの中で特別支援学校さんとのつながりがあることを感じ取れてよかった。

【PTA クラブ発表会および学校見学】

- ・子どもたちが思ったより歌ってくれてうれしかった。
- ・体を動かしてくれて、一緒に歌えてよかったし、楽しかった。
- ・子どもたちひとりひとりの反応が素直で良かった。
楽しんでくれていたし、発表者側にも出てきて一緒に踊ってくれたりして嬉しかった。
- ・思っていた以上に反応がよく、喜んでもらえた気がする。子どもたちも一緒に「チンタラホイ！」と言ってきて、一体感を感じた。
- ・学校見学という貴重な機会を設けていただいて感謝している。生徒さんたちが何を学び、先生方がどんなふうに寄り添って生活されているのか少しでもわかったような気がする。とても勉強になった。

【秋の芋ほり】

- ・春からずっと大切にお世話をしてくださった特別支援学校の生徒さん、先生方に感謝している。ありがとうございました。子どもたちが嬉しそうに帰ってくる様子を見て、このような色々な体験やふれあいは大切にしていかなければならないと、改めて思いました。
- ・大きな立派なお芋をいっぱい持ち帰ると期待していたが、一つも持ち帰れず残念でした。
- ・収穫できる量が少ない時を経験することにより、子どもたちはいろんなことを考えることができ、よかったと思う。
- ・特別支援学校との交流を継続して行うことで、子どもたちは特別支援学校の生徒さんのことを、いっしょに活動してくれるお兄さん、お姉さんとして、身近に感じているようです。
- ・幼少期からこのような交流を持つことで、様々な理解を深めていける良い機会だと思いました。

【すもう会】

- ・力士さんのお話が楽しく、子どもたちはどんどん相撲の世界に引き込まれていました。
- ・体が柔らかい力士さんに驚きながら、力士さんとの体操をみんなが楽しんでいました。
- ・特別支援学校の生徒さんも最初はドキドキしているように見えたのですが、身を乗り出しながら、取り組みの様子に釘付けでした。
- ・力士さんの歌は子どもの心にも響き、いい思い出となりました。力士さんと相撲をとるという経験、力士さんと触れ合えた経験は子どもたちの宝物になりました。そして、相撲が大好きになり、相撲ごっこも子どもたちの一番の遊びになっています。